



愛郷無限

2015年6月3日号 NO.516

写真提供:大山市

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

Subject：大阪都構想の住民投票に見る「変わりたくない日本人」

橋下大阪市長が政治生命をかけて挑戦した大阪都構想の是非を決める住民投票が【否決】されました。ほんの僅差で否決された後、様々な賛否両論の論説が各紙面や各番組を賑わせていましたが、ここに至っては静かなものです。

とても印象的だったのは、投票結果が出た後の記者会見で、もう二度と政治には戻らないと頑なに言い切る橋下さんに対して、報道各社が今まであれだけ叩いていたのに「そんなこと言わずに可能性はあるんでしょ」と執拗に食い下がって再起の言質を引っ張り出そうとしていたこと。そして様々な政治家や著名人がこのまま政治を去るのは惜しいので絶対に戻って来て欲しいし、戻ってくるはずと言っていたこと。結果の是非ではなく、私はこのような様子に強い違和感を覚えました。「自ら潔く去る」という選択肢を最初から持ち合わせない方々の集まりなんだな〜と痛感した次第。

司馬遼太郎さんの有名な小説「峠」の主人公、長岡藩の家老河井継之助が後世に伝えた【出处進退】にかかわる名言があります。

【進むときは人任せ、退くときは自ずから決せよ】

人の上に立つのは自ら絶対に望んではならず他人任せにし、逆に下りるときこそ廻りから諭されるのではなく自ら決すべきものであると。なんだか今の世には真逆の人が多すぎますね。何を成すかではなく、上に立って肩書きと地位を得ること、それにしがみつくことが目的に成っている御仁を沢山見かける現世に於いて、橋下さんの潔さは久しぶりに見た気がしました。(もちろん実際にはそんなに単純ではないのかもしれませんが)。そんな中で、大阪都構想の是非についてではなく、私のような凡夫にもはっきり分かったことが一つだけあります。兎にも角にも【日本人は現状を変えたくない人が過半】だということ。今の自分が楽で愉しいから先のコトなど考える必要ないという裕福で身勝手な人もいれば、一方で目の前の今を生きることに精一杯で先を考える余裕がない貧しい人の両方共になのです。中間層は言わんともせずでしょう。大阪という地域自体が特殊な事例であることも解説されていますが、そんな背景は私達がこの地元に於いても普段見聞きしたり対応したり、悩まされている様子と変わりありませんから体感的・体験的に良く理解できます。兎に角、変わったことは何もせず、今まで通りに波風立てないで欲しいのです。先のことは知らないし分からないから、今のままで居させろよと。

でも他方では、小泉元首相がそうであったように、徹底的なポピュリズムと劇場型のアジェンダを繰り返して、真意を分からせないままに空気を染めてしまう方法にはコテンと乗せられて熱狂する。日本人とはの誠にもそのような性質の集まりなんですね。

誰が言ったのでしょうか、思い出せませんが、「民主主義はこの世の中で最高の統治システムではない。世に幾多あるあらゆる手法の中で、まだマシなものだということだけである。それ故、世界には民主主義が残った」のだそうです。本当に難しい世の中を私たちは漂流させられているのだと思います。